



Title	大阪大学大型計算機センター長就任の御挨拶
Author(s)	小泉, 光恵
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1983, 51, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65585">https://hdl.handle.net/11094/65585</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 大阪大学大型計算機センター長就任の御挨拶

センター長 小 泉 光 惠

前センター長 関谷 全教授のあとをうけて、このたび図らずも大阪大学大型計算機センター長をお引受けすることになりました。昨日までは利用者群のほんの一角を占めるに過ぎなかった者がある日突然サービスセンターの責任者の座に就くことになったものですから、正直申して戸惑いを隠すことはできませんが、センターのスタッフの協力と、利用者各位の御指導御鞭撻によりセンターの機能発揮と質的量的強化に努力致したいと存じますのでよろしくお願ひ申上げます。

昭和 20 年代の後半、結晶の構造解析に未だ算盤やタイガーの手回し計算器が使用されていた頃の一時期、その道の研究者とおつきあいをしていたことがあります。その頃米国のある大学で構造解析の計算機が製作運転され始めており日本の専門学にとって垂涎の的でありました。30 年代はじめ、私はその大学の別の研究室に長期滞在する機会があって、その装置にお目にかかりましたが、思えばそれが私にとっての最初のコンピュータでありました。

以来 30 年、計算機の発達は急速に進み、その利用も広範な専門分野に拡がり、止まるところ測り知れない有様であります。このような情勢の中にあって、他の大型計算機センターと歩調を揃えて本センターも全国の大学等の研究機関に所属する研究者の学術研究に伴なう計算および情報処理を行なうための利用施設としての役割を果し得るよう努力しなくてはなりません。幸い歴代センター長ならびにセンター教職員の御尽力と学内外の御理解御協力によって、本センターの整備が進み、昭和 57 年 5 月から正式にサービスが始まった ACOS システム 1000 モデル 40 の運転も定常化されるにつれて、利用件数は一段と増加し、昨年同期に比べて演算時間で約 40 % 増という格段の急上昇を示すに至りました。その要因は計算機システム能力向上とソフトの開発によるところが大であると思われます。このような現況にある本センターが、日進月歩の科学の発展に即応し得る体制をとるには、計算機システムを一段と強化整備する必要があり、それももう間もなくのことと予測されます。

この時期にあたり、これらの諸問題を順次解決して本センターの機能を一段と向上させるため重ねて関係各位の尚一層の御支援と御協力を願いしまして就任の御挨拶と致します。